

アルツハイマー型認知症

- ・一番多いタイプの認知症
- ・女性に多い
- ・本人は楽観的であり気にしていない
- ・もの忘れから始まり、ゆっくりと進行
- ・最近のことを忘れる
- ・嗅覚が衰え、悪臭に気がつかないこともある
- ・取繕いや事実と異なることを話すことがある
- ・画像診断で脳の萎縮が見られることが多い

前頭側頭型認知症

- ・以前と人が変わったように身勝手になったり、抑制がきかなくなる様子がある
- ・万引きや信号無視など社会ルールに違反することがある
- ・交通事故の危険があり、早い段階から注意が必要
- ・同じ行動パターンの行動を繰り返す（散歩の道順、食事の内容、入浴時間など）
- ・50歳くらいから発病することがある
- ・言語をつかさどる側頭葉が障害を受けると簡単な言葉のやり取りも困難になる

脳血管性認知症

- ・脳梗塞や脳出血などの脳血管障害が原因
- ・脳血管障害が起こるたびに段階的に進行
- ・動脈硬化の危険因子を抱える男性に多い
- ・気分の落ち込みや意欲低下が見られる（うつ病との鑑別が必要）
- ・悲しくないのに泣いたり、おかしくないのに笑ったりする（感情失禁）
- ・物事の段取りを付けることが苦手になったり、注意力が散漫になったりする
- ・記憶障害は軽く、判断力は保たれることが多い

レビー小体型認知症

- ・記憶障害や判断力の低下のほか、実際には存在しない人、動物、昆虫などが見える「幻視」が起きやすい。
- ・初期では手が震えるが、進行すると筋肉が硬くなって震えが止まる
- ・歩行が小刻みになり、転倒しやすくなる
- ・調子の良いときと悪いときの波が大きい